

1 はじめに

本校は、山口市北部の田園地帯が広がる自然豊かな環境にある。昭和43年に篠生中学校と地福中学校が統合され、さらに平成16年に生雲中学校が統合され、現在の阿東中学校になった。校区は広大で、校区内にJRの駅が6駅ある。そのため通学は、徒歩の他に自転車、スクールバスで行っており、冬季にはJR山口線で通学する生徒もいる。

生徒は、生雲小学校、さくら小学校の二つの小学校から進学し、本年度の全校生徒は32名と小規模校である。生徒は明るく純朴で、集団の一員としてよく協力し、学校行事などには積極的に取り組むが、自己肯定感が低く、自ら進んで行動することが苦手な面がある(学校評価生徒アンケートより)。小さなことから一つ一つ取り組み、仲間と協力しながら成功体験を重ね、何事にも自信をもって積極的に取り組むようになることが課題である。



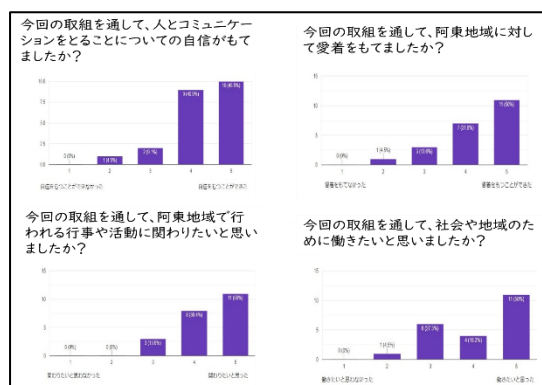
全校生徒(山口県教委・明治安田生命・レノファ山口による体力向上プロジェクトより)

2 地域連携を核としたキャリア教育への取組

こうした生徒の課題から地域の方と協力して地域課題の解決に主体的に取り組むことで、地域の方に喜んでいただく、うまくいかないことに繰り返し挑戦していく中で達成する喜びを味わう、また地域のことが大好きという気持ちを育てることを目標に「持続可能な地域連携を核としたキャリア教育」を進めることとして昨年度から取り組んでいる。

(1) 令和4年度の取組「山口大学経済学部との共同イベントの開催」

山口大学経済学部と共同で、「阿東ミニ文化祭」を開催し、大学生と一緒に地域の方、小学生や自分たちが楽しめるイベントを企画運営した。事後アンケートの結果、生徒の感想から一定の成果を上げることができた。しかし今回は1回限りのイベントだったため、これらの取組を持続可能な形で、しかも教育課程内で行うことが課題となった。



今回、ミニ文化祭をやってみて自分はずっと動画を作っていて他の出し物を回ることができなかった。交流もなかなかすることができなかった。しかし、楽しいと感じたし、他の人も笑顔で楽しそうだったから、今回のような取組を増やしていいと思った。

みんなが楽しめるにはどういった企画を実行したらいいのか、人を呼び込むには何が必要なのかなどをベアで話し合いました。当日、最初はあまり人が来なかったけど段々と人数が増えていき、楽しそうにしてくれていたから良かったです。普段は話すことができない大学生の方たちと色々な会話ができて楽しかったです。

はじめは大学生と話すことに抵抗があったが、時間が経つうちに話やすくなった。自分たちの計画したことを他の小中学生が楽しんでくれたので嬉しかった。これからは阿東地域のための取組を実施していきたいと感じた。

阿東のためにボランティアをしてけっこう阿東に愛着をもてました。そして自分の役割を全うできた。これからはこの経験を生かして日頃の生活に生かしていきたいと思えました。話すこともちょっとは楽になりました。

【事後アンケート・生徒の感想】

(2) 令和5年度の取組 「地域の方を講師とした体験学習」

昨年度の振り返りより今年度は事前に総合的な学習の時間で、「地域の方を講師とした体験学習」を7時間で実施することとし、年間計画の中に位置づけた。時期は、6月末から7月上旬とした。この時期で実施するのは、学校での体験を基に夏休み以降は、地域の方が中心に社会教育として実施し、さらに内容を充実したものにするためである。

4つの講座を開設してアンケートをとり、生徒に自分の希望講座に所属することとした。事前の打ち合わせでは、地域の方の阿東地域に対する熱い思いや子どもたちへの期待を感じることができた。

また、無理なく継続的なものにするため、学校の役割を以下のようにした。また教職員に新たな負担をかけないようにしながら効果的な指導を行うことを目指した。

・生徒は、4つの講座の中から興味のあるものを選んで参加する

・地域の方は、各講座の指導を行う

【地域の思い】

- ・今回の学校での活動だけで終わるのはもったいない!
- ・夏休みや休日に子どもたちが自主的に活動する機会を地域が持つ!
- (社会教育の場にしたい)
- ・小学生も巻き込みながら、中学生が小学生を指導するようになってほしい!
- ・子どもたちと関わることで、地域も元気になる!企業として地域貢献をしたい!

・教職員は、サポート役として参加し、評価を行う

【学校ができること】

- ・毎年この時期に社会教育のきっかけとなるように授業を設定する!
- ・休日や夏休みに部活動の時間を調整し、生徒が活動する機会をつくる!
- ・休日や夏休みに学校施設を開放し、生徒が使用したり、地域の方が使用したりする場所を提供する!
- ・肯定的な評価を行い、自信がもてるようサポートする!

【地域の方との打ち合わせ内容】

【日程】

① 5月30日(火)
講座の担当者からのプレゼン
4名の担当者から説明、説明後ポスターセッションの要領で、それぞれのブースをつくり、生徒が興味のあるところに行って質問をしたり、説明を聞いたりしてやりとりを行う。(ポスターセッション)

② 6月30日(金) 5,6校時

③ 7月4日(火) 5,6校時

④ 7月11日(火) 5,6校時

【日程】

【内容】

軽トラの荷台に小屋を載せるタイプのキャンピングカーの商品企画を行う。

各グループでコンペを行い、より魅力的なものを選ぶ
→ 夏休みや休日に作成する。

【内容】

基本的なプログラムを学び、自分たちの身近な課題を解決するためにプログラム作りに取り組む。

(例) 夏に水やりを無人で自動的に行う装置を作る。

(例) 老人向けの脳トレアプリをつくる。

【内容】

食品(商品開発)とキッチンカーによる販売体験(夏休み)

売上げをアップさせるパッケージ作成

【内容】

自分たちの目線で、様々な立場の人(観光客・移住希望者など)に地域を紹介する移動式ナビソフトを制作する。

【4つの講座についての紹介ポスター】※地域の方が作成し、プレゼンで使用

5月30日(火) オリエンテーション



【全体説明】



【軽トラ コンセプトコンテスト】



【マイクロビットプログラミング】



【地域ナビ】



【食品開発・パッケージ作成】

それぞれの担当者が工夫を凝らし、合同就職説明会のように各ブースで説明を行った。

6月30日(金) 活動1回目(アイスブレイク中心)



【軽トラ コンセプト コンテスト】



【マイクロビットプログラミング】



【地域ナビ】



【食品開発・パッケージ作成】

活動1回目は、主にアイスブレイクから始まり、お互いの意見が活発に出るような取組みをそれぞれ行った。

7月4日(火) 活動2回目



【軽トラ コンセプト コンテスト】



【マイクロビットプログラミング】



【地域ナビ】

(船方牧場)

(長門峡道の駅)



【食品開発・パッケージ作成】

2回目は、外に取材に出たり、実際に試作品づくりをしたりとより活動的になった。

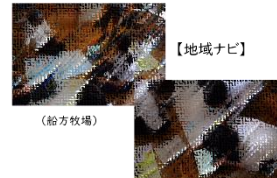
7月11日(火) 活動3回目(最終回)



【軽トラ コンセプト コンテスト】



【マイクロビットプログラミング】



【地域ナビ】

(船方牧場)

(長門峡道の駅)



【食品開発・パッケージ作成】

最終回は、自分たちの成果を発表したり、今後の具体的な活動を計画したりした。最後に振り返りを行い、各自の成長を確認できた。

生徒の感想

【軽トラ コンセプト コンテスト】

私は、自分の意見を出すことが苦手だったけど、今回の学習で地域の方のアドバイスやマインドマップの技術を知ったおかげで、前よりも意見を出せるようになったと思う。結果的にはコンペに負けてしまったけど、この学習をこれからの生活に生かしていけたらいいと思う。(3年生)

【地域ナビ】

今回の地域総合で意見を出したり、インタビューをして人とのコミュニケーションの力が少しついたと思ったし、パソコンなどを使ってまとめることができました。長門峡の歴史を知って、身近にあるけどすごい場所だなと思いました。これからは阿東の有名な所などの歴史を調べたりしてみたいです。(1年生)

【マイクロビットプログラミング】

自分たちで決めた目標に向かって、一つ一つプログラムを組みながら考えて最後は完成できたし、みんなでアイデアを出し合ったりしてつくった作品なので、とても達成感がありました。とても楽しく活動ができたし、コンピュータの作業やプログラミングにも興味がわいたので、機会があればもう一度やってみたいです。(2年生)

【食品開発・パッケージ作成】

地域の方と今回のような本格的な活動ができることはなかなかないので、とても貴重な体験になった。0から商品開発したのも初めてで、悩むことも多かったけど、グループのみんなや経験のある地域の方、先生方と話し合いを重ねたり、協力し合ったりしてオリジナルのクレープという素敵な商品をつくることのできた。もしまたこのような機会があったら積極的に参加したいと思う。(3年生)

(3)「地域の方を講師とした体験学習」その後

感想にもあるよう生徒は、それぞれの活動の中で成果を味わい、さらに興味をもった者も見られた。「マイクロビットプログラミング」では、夏休みに講座の参加生徒を募集したところ 6 名の生徒が参加し、さらに内容の濃い取組が行われた。また「食品開発・パッケージ作成」では、実際にキッチンカーでクレープ、スムージー等を長門峡道の駅で販売した。お客様にどのように声をかければ買ってもらえるか試行錯誤しながら取り組んでいた。最初は恥ずかしがっていたが、地域の方といっしょにお客様に声をかけることで自信を深めていった。11 月末までに 6 回の販売体験を行ったが、すべてに参加した生徒もおり、将来飲食店を経営したいという夢を地域の方に語っていた。



【夏休みに行われたマイクロビットプログラミング】



【キッチンカーでの販売体験】



「地域ナビ」では、長門峡道の駅にQRコードを掲示していただき、実際に使用していただいた。「軽トラコンセプトコンテスト」では、地域のイベントで、ものづくり教室を行い、小学生や他校の生徒にもものづくりの楽しさを体験するブースの運営を行った。また、文化祭で地域の方が実際に軽トラックの荷台にキャンピングカーのモデルを載せて玄関前で展示を行ったり、地域のイベントに展示したりした。



【地域イベントでのものづくり教室】



【地域イベントでの軽トラキャンピングカー展示】

3 今後の取組

これらの活動を通して生徒は、どのように成長したのか学校評価アンケートのキャリア教育の数値を検証した。令和 4 年度から令和 5 年度の変化を見ると右の図のようになった。特に大きな変化は各項目とも見ることはできなかったが、2 年生の「自分にはよいところがある」の項目は、上昇している。また阿東地域の生徒は、各項目とも 4 点満点で 3.0 以上の項目が多く見られることがわかる。山口市内 18 校のキャリア教育に関するアンケート結果では、特に「目標をもって努力している」の項目において肯定的評価の割合が 60% と特に低い中で、阿東地域の生徒の将来に対する意識は比較的高い傾向にある。

キャリア教育の項目		時期	2年生	3年生
自分にはよいところがある。	R4	前期	2.8	2.7
		後期	3.0	2.8
	R5	前期	3.2	2.9
		後期	3.1	2.6
私は、目標をもち、実現に向けて努力している。	R4	前期	3.1	3.1
		後期	3.1	3.0
	R5	前期	3.2	3.0
		後期	3.2	2.9
私は、阿東地域を大切に思っている。	R4	前期	3.6	3.4
		後期	3.8	3.0
	R5	前期	3.7	3.0
		後期	3.6	3.1
私は、行事や学級での取組で、「仲間と一緒にやってよかった」と感じたり、「またやってみたい」と感じている。	R4	前期	3.5	3.5
		後期	3.7	3.5
	R5	前期	3.5	3.1
		後期	3.5	3.5

【学校評価のキャリア教育に関する項目】※4 点満点

さらに高くするためには今後の取組が大切になる。来年度もこれらの取組をさらに充実させ、持続可能なものにする必要がある。そこで現在、以下の 2 つの計画を進めている。

- ① ドローンの操縦体験・免許取得を目指して!
- ② 草刈りロボットの開発スタッフになろう!

①ドローンの操縦体験・免許取得を目指して

11月14日(火)に、山口市とセイノーホールディングスとの共同プロジェクトに地域づくり協議会の協力で、全校生徒が参加した。

数年前までは、実現するとは思って
もいなかったドローンでの物流を目的
の当たり前にして生徒をはじめ教職員もた
いへん驚くと共に阿東地域のこれか
らの可能性を身近に感じることができ
た。

ある生徒は、「これで阿東にいなが
ら出前ピザも楽しめますね!」や「どん
どん阿東も便利になる!新しい商売も
できるかも」といった感想を述べてい
た。



【11月16日 中国新聞より】

ドローンに対して親近感がわくと共にドローンに対する興味関心が高まった。3学期には地域の方といっしょに放課後部活動に充てている時間を1週間に1回程度、2年生でドローンの操縦体験を行う予定である。来年度は地域課題を解決するためのプロジェクトとして、講座を開設する。ドローンの操縦が目的ではなく、地域を豊かにするための手段として進めたい。

② 草刈りロボットの開発スタッフになろう!

本校は、広大な敷地があり、夏場にはグラウンドにも多くの草が伸びてくる。刈っても刈っても伸びてくる。特にプールの横は、細かい石が多く、隣の木工所に気を遣いながらの作業となる。また蛇やその他の害虫の心配があり危険でもある。そんな場所でも(株)ユニック(東京都杉並区高円寺南)さんの草刈りロボットを使えばリモートコントロールで、難なく草刈り作業ができる。写真は、昨年度テニスコートを生徒自らが草刈りを行ったときのものである。生徒は、ゲーム感覚でどんどん草を刈っていた。自分たちが使用する場所がみるみるうちにきれいになり、草の中に隠れたソフトテニスボールを苦勞して探す必要がなくなった。きっかけは、(株)アイシンさんの紹介である。実際に使ってみての感想を集めたり、草刈り以外の除雪機能の研究を行ったりと適切なモニター場所やエンジニアの不足があるということから困っておられた。そこで草刈りや除雪に困っていた阿東中学校と結びつけていただいた。来年度の地域の方を講師とした講座でこの草刈りロボットの開発エンジニアとしてさらに便利な機能を考えてユニックさんに提案し、試行錯誤を繰り返す予定である。夏休み以降は社会教育として行う。

4 最後に

これらの様々な取組は、学校だけでは決してできない。地域の方を通して学校に企業を紹介していただいたものばかりである。学校は次の3つの条件を軸に可能な限り受け入れを行っている。



【草刈りロボット】

- ③ 学校は、生徒と地域が活動する機会を捻出する(カリキュラムマネジメント・部活動時間の工夫)。
- ④ 学校は、生徒と地域の方が活動する場所を提供する。
- ⑤ 学校は、生徒と保護者に地域の方と活動する情報を提供する。

この3つを基本に無理なく、無駄なくこれらの活動を継続、発展させていきたい。